



重点分野2 (中目標)	運輸インフラ・通関能力改善										
開発課題2-1 (小目標) 運輸インフラ・通関能力改善	【現状と課題】 ブルンジは、東アフリカ共同体（EAC）及び東南部アフリカ市場共同体（COMESA）に加盟し、同国の輸出入量の半分以上を扱う港湾施設を有していることで、大湖地域の貿易において重要な役割を担っている。また、2021年1月1日から運用が開始されたアフリカ大陸自由貿易協定（AfCFTA）の加盟国として域内の円滑な物流に資することが期待されている。しかし、同施設及び通関システムの整備が遅れ、同施設は十分な機能を果たしておらず、円滑な物流の阻害要因となっている。そのため、域内の湖上交通を含む物流の円滑化を図ることにより、同国及び近隣諸国ひいてはアフリカ大陸の経済発展及び人道支援に資することが期待される。				【開発課題への対応方針】 ブルンジ国内、EAC、COMESA及びAfCFTA域内の物流の円滑化を目指して、港湾整備及び通関システムの強化を中心に、ハード面の整備とともに、人材育成と効率的な施設運営に資する支援を行う。						
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間 2020年度以前 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度 2025年度 支援額（億円） SDGs 備考						
	貿易円滑化プログラム	ブルンジ国内のみならずEAC、COMESA及びAfCFTA域内の発展に資するように、港湾整備及び通関システムの強化等を通じて、貿易の円滑化を支援する。		ブジュンブラ港改修計画	無償	33.67 8,9					
				東部アフリカ地域における貿易円滑化及び国境管理能力向上プロジェクト	技プロ	5.60 8					
				東部アフリカにおける貿易円滑化及び国境管理能力向上計画（UNOPS連携）	無償	3.51 8 複数国対象案件のため累計額を記載					
		運輸インフラ・通関能力改善分野の課題別研修	課題別研修他	8,9							
重点分野3 (中目標)	基礎的社会サービスの向上										
開発課題3-1 (小目標) 保健・衛生環境向上	【現状と課題】 ブルンジでは、医療施設及び人材不足により、医療・保健サービスが十分に提供できていない。特に、母子保健分野では、新生児死亡率は約21人（出生数千人当たり、死亡率推計に関する機関間グループ（IGME）、2019年）、5歳未満の子どもの死亡率は約56人（出生数千人当たり、IGME、2019年）であり、サブサハラ・アフリカの中でも著しく高い。そのため、医療従事者の人材育成及び医療施設の機能強化への取組は優先課題である。				【開発課題への対応方針】 Vision Burundi 2025を念頭に、医療機関における保健サービスの質の向上を目指して、母子保健分野のプログラムを継続的に実施し、同プログラムを通じて、基礎的な社会サービスの支援を行う。						
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間 2020年度以前 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度 2025年度 支援額（億円） SDGs 備考						
	母子保健サービス向上プログラム	国家保健政策の中でも重視されている母子保健分野の課題に対処するため、医療機関における母子保健サービスの質の向上に資する支援を行う。		ブルンジ四県における母子保健サービス強化計画（UNICEF連携）	無償	3.82 3,5					
				母子保健サービス強化プロジェクト	技プロ	3,5					
	保健医療分野における人材育成プログラム	国家保健政策の中でも重視されている保健分野の課題に対処するため、研修や技術協力による人材育成を行う。		保健医療分野の課題別研修	課題別研修他	3					
		感染症拡大への準備・対応及びイノベーションを通じた保健システム強化計画	マルチ	0.48万USD 3 日本開発政策・人材育成基金（PHRD）							

